

記入日 2024年 3月 27日		職員との確認日(3月30日)
	自己評価の観点	評価項目
I 保育理念	子どもの最善の利益の考慮	①子どもの最善の利益の考慮を意識して保育にあたっているか？性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮しているか？国や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮しているか？ ^② ② 自分の園の保育方針・保育目標を他者に伝えられるか？保育方針・保育目標に沿った保育を意識的に行っているか？
	① 子どもの人権の尊重 ② 保育方針・保育目標	
II 子どもの発達援助	1 <u>子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場</u>	①子どもの健康管理は適切か？感染症対応のマニュアルがあり、理解し実践しているか？衛生管理マニュアルがあり、理解し実践しているか？事故や災害に備えた安全対策が実施されているか？ ②子ども自らが、主体的に学び・生活できる環境設定(物的環境・人的環境)を意識的に心掛けているか？ ③人との関わりを育むことを意識した環境を設け、保育をしているか？
	① 健康・安全で心地よい生活 ② 子どもの主体的な生活 ③ 人との関わりを育む環境	
	2 <u>生活と発達の連続性</u>	①子ども観・発達観をクラス職員や園全体の職員と理解・共有し、保育を実践しているか？ ②子ども一人ひとりに応じて保育目標を設定しているか？子ども一人ひとりの発達の過程に応じた対応をしているか？その記録はあるか？ ③障害のあるなしに関わらず、一人ひとりの家庭的背景・発達段階を考慮した保育を行っているか？ ④生活の連続性を意識した保育計画・保育内容になっているか？
	① 子ども観・発達観の理解と共有 ② 発達過程に応じた保育 ③ 個人差への配慮 ④ 生活の連続性	
3 <u>養護と教育の一体的展開</u>	①「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解しているか？「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解しているか？	
① 主に乳幼児保育における養護と教育の一体的展開 ② 主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開 ③ 主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開		
4 <u>環境を通して行う保育</u>	①子どもが快適に過ごせる環境(清潔・採光・換気・照明など)への配慮がなされているか？子どもの発達に応じた環境設定を意識的に行っているか？身近な自然を通して感性を育み、さまざまな気づきにつながるようにしているか？その日の天候・気象に合わせた保育をしているか？身近な動植物を飼育・栽培するなどし、それらに興味や関心がもてるよう配慮しているか？遊びと生活が、学び(数・図形・言葉・文字など)につながるように工夫しているか？ ②季節の変化や子どもの育ちの変化に合わせた環境の構成や再構成をしているか？	
① 保育の環境 ・ 人的環境 ・ 物的環境 ・ 空間 ・ 自然や社会現象等 ② 環境の構成・再構成		
1 <u>家庭との緊密な連携</u>	1、①子どもの成長の喜びを保護者と共有できるように配慮しているか？②日常の保育を保護者に理解し援助してもらえるように配慮しているか？③子育てに関する相談が、日常的・ゆとりよく行われているか？	

<p>Ⅲ 保護者に対する支援</p>	<p>① 子どもの成長の喜びを共有 ② 保育内容等の説明・応答責任</p> <p>③ 子育てに関する相談・援助</p> <p>④ 保護者への個別支援</p> <p>2 地域における子育て支援</p> <p>① 保育所機能の開放 ② 関係機関との連携</p>	<p>しているか？②子育てに関する相談が、口頭しやういよつに努めているか？個人面談など、保護者を個別支援できるように配慮しているか？</p> <p>2、①子育て中の地域の方に向けた支援活動を意識的に行っているか？②保育の充実のために、関係機関との連携を十分行っているか？③保護者や職員に対する情報提供を必要に応じて行っているか？</p>
<p>Ⅳ 保育を支える組織的基盤</p>	<p>1 健康及び安全の実施体制</p> <p>① 健康の保持及び増進 ② 安全・衛生管理 ③ 家庭や保健・医療機関等との連携</p> <p>2 職員の資質向上</p> <p>① 保育の計画 ② 保育士等の自己評価 ③ 保育所の自己評価 ④ 研修</p> <p>3 運営・管理、社会的責任</p> <p>① 法令等の遵守 ② 個人情報の取扱と苦情解決の責任</p>	<p>1、①園の保育理念・方針・保育課程などを正しく説明できるか？指導計画のねらいや内容を保護者にわかるように説明できるか？指導計画作成は、保育課程に基づいて作成しているか？子どもの医療や保健に関する問題について連絡・相談すべきところを知っているか？②緊急時の対応ができるようにマニュアルがあり、理解し実践できるようにしているか？③子どもの健康保持・増進及びより良い発達のために、家庭と保健・医療機関との連携を通して保育をしているか？</p> <p>2、①会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言しているか？②自己評価等で自分の課題を見つけ、次の課題解決に向け自己研鑽しているか？④園内外の研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めているか？</p> <p>3、①守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか？②個人情報取り扱いや守秘義務について十分理解し、徹底しているか？保護者の要望や苦情を訴えやすい仕組みを用意し、迅速に対応できるようにしているか？③施設長として、保育所の理念や基本方針等について職員に十分周知しているか？施設長は、重要な意思決定にあたり、職員・保護者から情報・意見を集めたり説明をしているか？</p>

の保育園 自己評価

作成者指名 飯田 雅美
振り返り内容
<p>①子どもを人格を持った人間として接し、固定観念を持たず、一人ひとりの個性を尊重し保育を行ってきた。『不適切保育について』の認識を改めて確認することで、子どもたちへの人権的配慮や保護者への関わり方を意識するようになった。幼児クラスでは、絵本などを通して、様々な国の文化に触れる機会を持つようにした。</p> <p>②第三者評価を取り組む中で、保育方針・保育目標を再度確認する機会になり、保育士間で話し合う場を多く持った。コロナが5類になったことで、行事など以前のように開催することができ、保護者と子育てや子どもの成長を共有できる事も増え、保育への共通理解がより深まってきた。</p>
<p>①視診や触診などで個々の健康状態を把握し、送迎時には家庭と細かく連絡をとり、体調の変化に早く気付けるようにしてきた。日頃から看護師との連携し、相談したり、適時子どもたちへの衛生指導を実施した。安全対策については、ビルのオーナーのヒューメデイカの社員の方とも、月一回の避難訓練を行った。今年度は、プール時の地震の避難訓練を行ない様々な状況を想定した。地震対策としての落下防止の工事は行えなかった。職員の感染症の対策を心がけ対応したが、反面人手不足になる事もあった。そのような時は、職員間の連携などで工夫し保育の安全性を維持した。</p> <p>②当園が最も大切にしている子ども自身が選択し、遊びたいという「主体性」が引き出せる保育環境づくりに力を入れてきた。月齢や年齢に応じて、玩具の種類や数をこまめに見直し、入れ替えたりした。生活面でも、各年齢や発達・ひとりひとりの意欲に合わせ配慮した保育・環境の設定を行った。</p> <p>③保育士との信頼関係(乳児は担当制)を基本に、好きな遊びを見つけて遊びこむ。保育士との信頼関係を元に友だちとの関係を広げ、深めていくことを意識してきた。幼児クラスは異年齢との関りを大切にしながらも、学年ごとの発達の課題も大事にしグループ活動も積極的に取り入れた。</p>
<p>①クラス担任同士での話し合い、乳幼児会議、リーダー会議、職員会議、各行事の打合せ会議など話し合いを細目に行ってきた。その会議で確認をし、共通認識のもとに保育実践を進めてきた。今年度は、新たに夕方のパート会議も行い、なるべく全ての職員がそれぞれの立場で話し合える場をつくってきた。会議は、お昼に行うため、職員の休憩の保障や体制づくりが難しいという課題が残った。</p> <p>②一人ひとりの目標を立て、個々にあった声かけ、対応をしている。発達状況、成長の過程を経過記録に記録をしている。</p> <p>③一人ひとりの発達・特性を理解し、また家庭的背景なども考慮し安心して生活・遊びができるよう日々配慮をして保育を行ってきた。時には保護者支援という立場で、様々な配慮や工夫をしてきた。</p> <p>④生活においては、一日の日課の流れ、日々のくり返しを大切にしてきた。連続性を意識して計画を立てて保育してきた。</p>
<p>常に保育とは、「養護と教育」が一体であると意識して、保育実践をしてきた。「養護」とは何か職員間の認識を共通理解するために、グループワークを行い学びを深めた。</p> <p>①0歳児は、養護が中心になるが子ども自身が意識出来るよう言葉を添えて丁寧に保育をしてきた。</p> <p>②1歳児については、身の回りのことは、手伝ってもらいながら、《自分で》と育ってきた自我を大切にに関わりをもった。2歳児については、自分でできたという達成感を持てるようひとりひとりの状況に合わせて丁寧に援助してきた。</p> <p>③幼児クラスでは、異年齢での生活を主体にしながらも、それぞれの年齢だけでの活動の充実を図るためグループ別の活動も行ってきた。時には、感染拡大を防ぐために、クラスだけにとらわれず、安全に過ごせるよう配慮もしてきた。作業療法士や療育センターの巡回訪問を通じて要配慮児への対応など工夫できることは、保育の中に積極的に取り組んできた。</p>
<p>季節に合わせて快適に過ごせるように環境の調整を行った。</p> <p>①感染症対策に各クラスで空気清浄機を使用する。毎日の清掃、遊具の消毒を行っている。天気の良い日は全クラス戶外遊びを行い、季節の自然に触れ土・太陽・風・草花・生き物との関わり・世話を通して学びを深めた。食育の取り組みとして、栽培し収穫をしたものを自分たちで調理、食べるという喜びを友だちと共に共有する経験を大切にしたい。給食のメニューは、季節の物を積極的に取り入れてきた。保育室にも、様々な事に関心が持てるよう、図鑑・絵本・カードゲーム積み木など、環境の設定を行い、子どもたちの探求心、好奇心を引き出すようにした。日本の伝統的な行事の中で、経験をし理解を深めていった。</p> <p>②成長に合わせて、遊具や絵本の入れ替え、保育室のコーナーを変化させた。</p>
<p>1、①②③乳児は連絡帳や登降園時に保護者とコミュニケーションを大切に行ってきた。幼児はクラスノートやホワイトボードで保育の様子を保護者に伝えてきた。幼児クラスは、個人のノートがない為、行事などの</p>

取り組みやツルノ活動などコミュニケーションを作成し日々見えるように工夫を凝らした。幼児ツルノになると、個人のノートがなくなるので細やかなコミュニケーションができないところを、どのように補っていくのか課題が残った。各月でクラスだよりを発行しクラスの子どもの様子を伝えることができた。写真を使い、各クラスの子どもの様子や誕生会の様子を伝える中で子どもの成長を共有してきた。つど相談があれば、その場で対応。その場で答えられない場合は「後日」ということで他職員や園長などと相談し返答ができるようにしたが、最終的に保護者との確認を持ちきれないところもあり、不十分になってしまったところがあった。必要に応じて面談を設けてきた。

④保育参観・参加で園生活を見てもらったり個人面談で話を聞いて一緒に考え支援した。家庭支援が必要な場合は、なるべく受け入れる体制をとり、子どもが安全に過ごせるように配慮してきた。

2、①園庭開放(夏は水遊び)、育児講座、交流保育への参加、一時保育の受け入れを行ってきた。年度の後半は、保育士の確保が難しく一時保育をおこなえていなかった。園見学も少人数にしながら進めてきた。

②配慮を要する保護者・園児との対応では、鶴見区・児童相談所・療育センター・医療機関他、関係期間と連携を測りながら進めてきた。

1、①②③保育説明会や懇談会などを通して、保育理念・方針・保育課程などを保護者に向けわかりやすく説明してきた。子どもの保健や衛生については、園の看護師に相談したり、マニュアルに沿って対応。マニュアルはすぐに見られるように、各クラス、事務所に置く。今年度は安全計画を作成しマニュアルの見直しもおこなった。ヒヤリハットと事故との職員の認識を変えるため、書式をかえ意識改善に努めた。感染症など園内で流行した病気は、保護者への情報公開をより具体的にしたり、医療機関と連携し対応してきた。戸外遊び、リズムあそび、体育など家庭の理解を得ながら子どもたちの体力づくりを進めてきた。毎月、保健だより、栄養士からのおたよりを発行し、身体づくりや健康についての情報を発信してきた。

2、①どの職員も子どもの最善の利益を第一に考えて保育にあたっている。会議では、子どもの姿や保育の考え方を協議するようになってきたが、時間がない中なので、議題が持ち越しになることが多かった。

②、③保育士ひとりひとりの自己評価は今年度は取り組むことが難しかったが、保育所の自己評価や全体の振り返りは職員会議で取り組むことができた。

④土・日の研修も含め、ZOOMなどを活用し、積極的に研修に参加し、自己研鑽を積んできた。特にキャリアアップ研修に積極的に参加をした。

3、①②法順守、個人情報取扱いには十分注意してきた。保護者からの要望や苦情については、「子どもにとっての最善の利益」を考えたくうえで迅速に対応する努力をしてきた。

③施設長として、事あるごとに園の理念や方針について語ってきたため、理念・方針に沿った保育実践が行われてきた。意思決定にあたっては、職員の事情、意見や要望を考慮し、説明もし、話し合いを重ねて決定をしている。第三者評価の保護者アンケートでは、保育理念や保育方針への理解がとても高いとの結果がでた。